

広報

No. 169



昭和62年 7月15日

発行・編集 国見町企画課

お  
も  
な  
内  
容

基本計画まとまる……………2～3

一 国見町公共下水道 一

菊地町長、元気な顔を見せる……………4

ふるさとの文化財……………5

おしらせ……………6～7

公民館だより……………8～9

わだい……………10



'87  
7月

福島信用金庫国見支店

岡田明美さん(25歳) (貝田宇寺脇5 一雄さんの長女)

岡田さんは短大卒業後、57年4月に入庫、61年1月から役場出納室に派遣され、公金の収納及び支払いの事務を担当しています。

信金は「すべての家庭にしあわせを、すべての企業に繁栄を」をモットーに、地元に着し、愛される金融機関となるよう職員一同努力しています。「出納室は、明るくて、とても楽しい職場です」と話す岡田さん。ひかえめで、もの静かなお嬢さんです。

# 基本計画まとまる

## — 国見町公共下水道 —

下水道は、トイレの水洗化によって、蚊やハエのいない衛生的な生活環境をつくるとともに、雨による浸水から暮らしを守り、川や海の汚れを防ぐ大切な役割もっています。

町では、健康で住みよいまちづくりをめざし、下水道整備のための計画を進めてきましたが、このほど、その基本計画がまとまりました。

### 基本計画の概要

目標年次は、おおよそ二十年後の昭和八十年とし、計画処理区域は、現在の市街化区域一三七ヘクタールと目標年次までの市街化想定区域、さらに浄化センター周辺区域を含めた三三二ヘクタール(桑折町の一部を含む)が全体処理区域となっています。

排除方式は、汚水と雨水を別々に処理する分流式で、計画処理人口は七千五百六十人などとして下表のとりの概要となっています。

### 下水道整備費

全体計画処理区域の下水道整備に要する費用は、おおよそ四十五億円と試算され、この内国庫補助金約六億円、起債(借入金)約三十六億円を見込んで、町費から約三億円を投じる事業が計画されています。

これらの費用のうち、土地所有者などの受益者の方にもその一部を負担していただくこととなります。

### 今後の整備計画

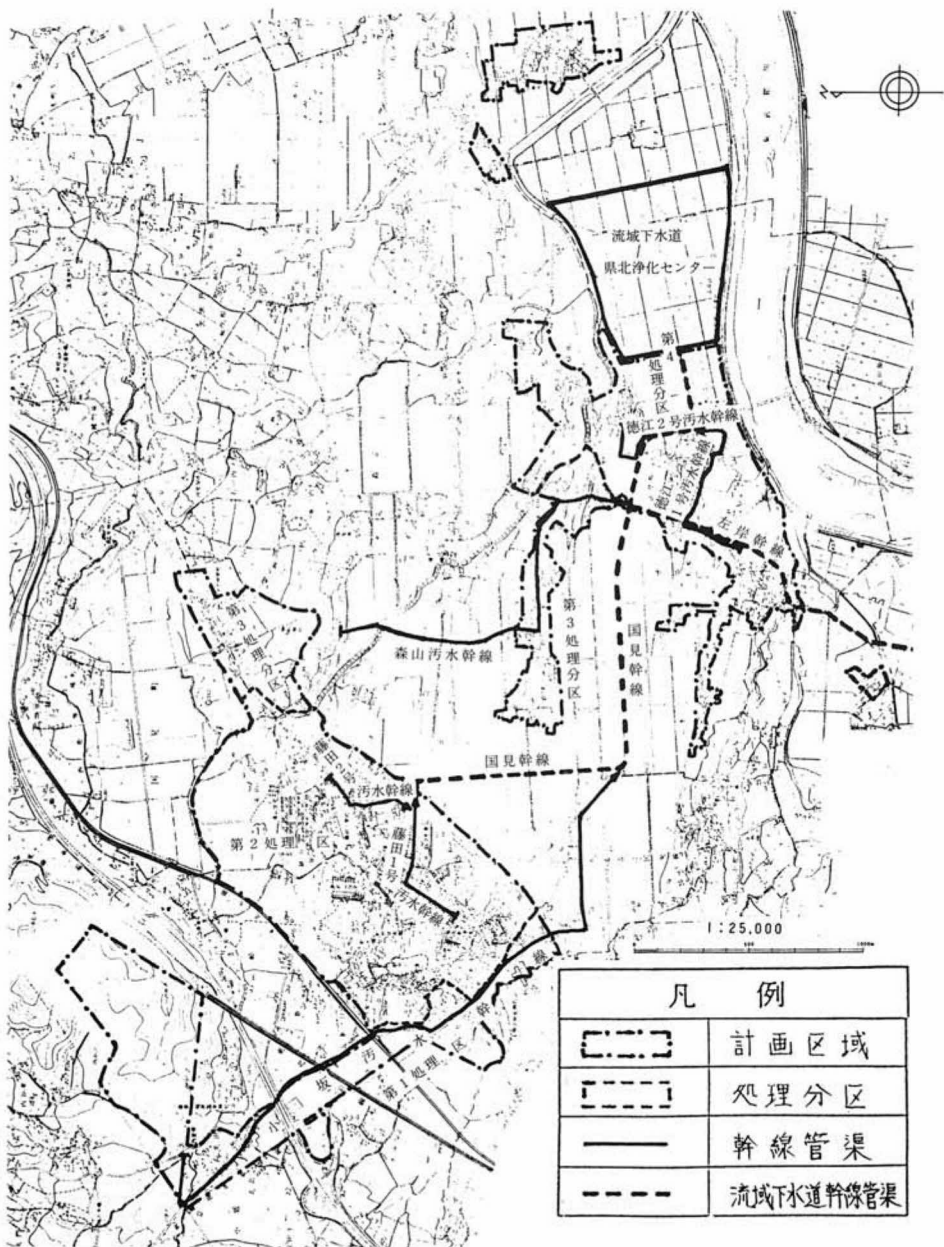
#### 第一期事業

町では、昭和六十三年度から下水道整備の工事に着手し、昭和六十八年度までを第一期事業として、市街化区域の一部約一四ヘクタールを整備する計画となっています。

国見町公共下水道基本計画の概要

目 標 年 次	昭和80年
計 画 処 理 区 域 面 積	332.0 ha (桑折町分 2.5ha を含む)
排 除 方 式	分 流 式
計 画 処 理 人 口	7,560人
計 画 汚 水 量	日 平 均 3,410m <sup>3</sup> / 日
	日 最 大 4,310m <sup>3</sup> / 日
	時 間 最 大 6,240m <sup>3</sup> / 日
計 画 雨 水 量	・降雨強度式：タルボット式 $(I = \frac{3.170}{t+19})$
	・確 率 年：7 年
	・流 出 係 数：0.20~0.50
管 渠 計 画	《汚 水》
	・処理区域を4つに分割 ・幹線管渠管径 200~350 mm ・幹線管渠延長約 7.7km (6幹線)
管 渠 計 画	《雨 水》
	・原則として既設の排水施設を利用 (5幹線)
ポ ン プ 施 設 計 画	汚水幹線 4ヶ所 (マンホールポンプ)

# 国見町流域関連公共下水道基本計画図（污水）



# 菊地町長

## 元気な顔を見せる



▲元気な顔を見せた菊地町長 (民友新聞社提供)

菊地町長は、六月十九日役場に登庁し、八時三十分から職員に対して、長期間にわたる入院治療中、職員が一致協力して町政を推進していることに対し感謝の意を表し、九時からは、四月に執行された統一地方選挙で当選された二十人の議員の皆様、に祝福のことばと、長期欠勤のお詫び、さらに町勢発展のために活躍されていることに対し、感謝のことばを述べられました。

町長は、血色もよく、九十五キログラムあった体重を、医師の厳格な指導のもとに減量して現在は七十五キログラムということでした。

また、言語は入院前と変わりなく、病院での生活や、歩行訓練の模様などを、ユーモアを混じえながらお話しをされました。

## 町長からの メッセージ

私は、昨年七月二十八日公務出張により、科研製薬に出向き、新工場早期着工を強く要請いたし、午後から天野建設大臣に陳情いたす予定でありましたが、突然の病魔におそわれ、入院治療することとなり、長期間欠席をいたしましたし、町民の皆様にご迷惑をおかけいたしました誠にお詫び申し上げます。衷心よりお詫びを申し上げます。

皆様からのお見舞や励ましに對しまして、心からお礼と感謝を申し上げます。お陰様で、言語の障害はありませんが、後遺症による左手足のリハビリテーションが続けてまいったところでありませう。

特に職務の重要性を深く認識いたし、一日も早い復帰を目指して歩行訓練を重点としたりハ

ビリに励んでまいりましたが、歩行訓練は毎日欠かさず医師の指導を受けながら規則正しく継続することにより、回復が早まることとあります。今後は二日の許可がおりましたので、本日、町職員と議員の皆様、町長室において挨拶をいたしました。

従いまして、六月定例会に出席となりまして、十日から二週間ほど訓練を停止することになり、訓練に支障をきたすとの医師の診断であり、誠に心苦しい次第であります。六月の議会は欠席させていただきますのであります。

しばらくぶりで役場に登庁して、身の引き締まる思いをいたし感激いたしました。

現在のところ、歩行訓練に於いて最も効果の上がる段階でありますので、真剣に訓練に励み、一日も早く出勤いたしまして、今まで休んだ分を挽回するよう最大の努力をしたいと思っておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

町民の皆様のご自愛を心からお祈り申し上げる次第であります。

昭和六十二年六月十九日  
国見町長 菊地 政治

## 大石邦子さんが講演

七月四日、福祉センター講堂で、大石邦子さんの講演会が開かれました。町父家庭福祉会(後藤忠一会長)の結成十周年記念に催されたものです。

大石さんは、本郷町出身で、二十代の初めに事故により不自由な身体となり現在車イス生活の障害者です。この間十数年及びぶ闘病生活、加えて肉親や恋人との数々の別れを体験、これらの不幸を乗り越えて来られたのは、肉親や親友、看護婦さんなど回りの人々の「やさしさ」があったこと、そして限りある命を慈しんで日々生きる大切さを切々と、しかも、暗いかげを微塵もみせず訴え、三百人の聴衆に深い感銘を与えました。



▲公演の後で、大石さんと八島助役

# ふるさとの文化財

## 藤田古館・山崎小館

菊池利雄



藤田古館・山崎小館復元図  
(藤田・山崎村地籍図によって作成)

藤田古館(藤田)は、山崎小館(山崎)は、瀧川の分派川(旧河道)である、観月台の堤と沢田(旧湿田)の高谷線とに挟まれた、舌状台地の突端部にあり、藤田城のある源宗山(高約100m)の南西部山麓に位置する台館である。

藤田古館(藤田)の南側は、逆断層によって地盤が隆起して

生じた急崖で、眼下には藤田の市街地が広がる、西根台地との比高は約八割をはかる。西側は瀧川の旧河道によって形成された高さが約八割、東側は沢田との比高が約三分の川岸段丘崖で、北側は山崎小館との間に深さは未調査であるが、幅二十五〜三十メートルと大規模な空堀によって区画された、東西百二十メートル、南北百三十メートル、略台形状の単郭式台館で、大手の虎口は東側に開かれていた。

館名は「藤田村絵図」(明治時代)には古館と誌されており、虎口が切通し状とみられる古い様式から、築城の時期は鎌倉時代にさかのぼるとみられ、館主は伊達氏の一家藤田氏と考えられる。

伊達晴宗との確執が生じて、懸田氏は亡び、藤田晴近は伯母の夫、相馬頼胤をたよって落ちのび、藤田氏は再び断絶した。

天正四年(一五六七)晴近の子息宗和は米沢城に帰参し、伊達晴宗は宗和に藤田氏を名のらせ、もとのごとく一家の班に列したが、藤田の旧領を回復したかは明らかでない。天正十九年豊臣秀吉の奥羽仕置による伊達氏の大崎移封に伴い、宗和は南部藩と境を接する江刺郡内館(北宮町)に移った。寛永二十一年(一六四四)藤田宗景は江刺郡伊予(現柳井)に転封となったが、延宝六年(一六七八)罪を得て死罪となり藤田家は亡んだ。

山崎小館は藤田古館の北側にあって、館の北側は集落が立混み遺構ははっきりしないが、昭和三十年頃の空中写真によれば館の輪郭はほぼ確認され、これを明治の地籍図との照合と現地踏査の結果を踏まえて、その復元を試みれば東西百十メートル、南北百十メートルの規模をもつ、略方形の平地館で南側は藤田古館との間の空堀で画され、東側の切崖面も旧観をよくとどめている。地割からみて北側から西側にかけては空堀がめぐらされていたと思われるが、埋め立てられて痕跡は残されていない。

# 国土調査進む

町では、今年度から、十か年の計画で国土(地籍)調査を実施します。

この調査は、現在の登記所備え付けの「土地登記簿」や「字限図」が十分な役割を果たしていないため、土地所有者の皆さん方に、立ち会いなどの協力によって、精度の高い測量により、位置、形状、地目などを明らかにするものです。

この調査をすることにより、新しい町づくりの計画、実施に役立ち、土地所有者の皆さんは、権利が確実に保護されることとなります。

調査の進め方は、まず長狭物(道路、水路など公共用地)と

個人の境界を確認し、その後、各個人の筆界を境界杭を、隣接者協議の上打っていただき、町が一筆ごとに調査をし、全て調査が終われば、測量に入ります。この測量により、それぞれ土地の形、面積が正確に作成され、新たな土地登記簿と公図となります。

町では、昭和六十二年度は、大枝地区を調査区域とし、作業を進めており、現在長狭物の杭打ちを終了し、一筆調査(七月十五日〜九月十四日予定)の準備に入っています。

互いの権利保護のため、皆さんのこの事業への協力をお願いいたします。



▲長狭物の杭打ち

- 杭は、抜いたり、動かしたりしないようお願いします。
- 位置の変更が生じた場合は速やかに役場へ連絡してください。



### 聴覚障害者 相談会のお知らせ

聴覚障害者の診査相談会が、次の日程で開催されますので、補装具などで困っていることがありましたら、ご利用ください。  
一、日 時

昭和62年7月31日

9時30分～14時30分

#### 二、場所

梁川町福祉会館

#### 三、持参するもの

○身障手帳(戦傷手帳)

○保険証

○印鑑

### 自衛官を募集

#### ●受付期間

・二等陸・海・空士(18歳以上25歳未満)

#### 常時

・専候補学生(高卒見込み21歳未満者)

8月1日から10月9日  
・航空学生(高卒見込み20歳未満者)

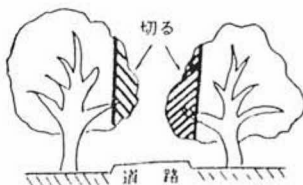
#### ●身分・その他

・国家公務員(特別職)

・衣・食・住は無料支給

※詳しくは自衛隊福島募集案内所(☎三一・五五二九)または役場住民課へおたずねください。

### 道路にはみ出した 枝を切ってください



国道・県道・町道・農林道に果樹や開木の枝が繁茂し、見通しが悪く、危険な箇所がみられます。

道路境界線からはみ出している部分は伐採をお願いします。

## 国保健康優良家庭を表彰

昭和六十一年度中、一度も診療を受けなかった健康優良家庭の表彰式が、七月六日役場で行われました。

この日表彰を受けたのは六十三家庭で、この家庭に共通していえることは、常に健康に対する自覚と、自分に適した健康法をもち、実践しているということです。

一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」習慣を身につけたものに、  
次に、表彰された健康優良家庭をご紹介します。

### 健康優良家庭紹介

敬称略

- ▽十年連続家庭(一家庭) 菅野秋雄(内谷東)
- ▽九年連続家庭(一家庭) 吉田タカ(貝田)
- ▽八年連続家庭(一家庭) 瀬戸洋一(中部)
- ▽七年連続家庭(二家庭) 井砂みさを(宮町北)
- ▽引地幸一(駅前)



▲十年連続無受診の菅野秋雄さん

- ▽五年連続家庭(一家庭) 菅野マツエ(駅前)
- ▽四年連続家庭(三家庭) 長谷川サチ子(板橋) 大竹竹夫(本町) 櫻沢栄子(高城)
- ▽三年連続家庭(四家庭) 松浦信(滝山) 田中ハツ(第一) 佐野正光(第九) 上沢芳正(大木戸)
- ▽二年連続家庭(十一家庭) 秦長蔵(宮町北) 佐藤次郎(山崎小館) 菊地あさ子(大町南) 鴨田常雄(小坂) 実沢久三郎(第十二) 佐藤アキ(貝田) 佐藤忠助(貝田)
- ▽一年家庭(三十九家庭) 斎藤藤一(錦町) 富永和子(錦町) 古川ひさ子(大町南) 荒沢哲夫(大町南) 舟山晃徳(大町南) 富樫行雄(本町) 大村計(本町) 大森忠治郎(宮町南) 佐藤勝伊(石母田郎) 穴戸山崎小館) 吉田栄作(山崎小館) 佐藤直(滝山) 菊地清(源宗山東) 八巻吉子(源宗山西) 豊田操(源宗山西) 原田清治(太田川) 関本東(板橋) 高橋榮子(太田川) 一條正勝(泉田) 仲野周助(泉田中) 阿部幸雄(泉田下) 佐藤恵子(小坂) 鴨田善二(内谷東) 福田美代子(内谷東) 佐藤芳夫(第三) 武田富夫(第三) 佐藤トライ(第三) 村上文雄(第九) 八巻次男(徳江北) 榮夫(徳江北) 鈴木嘉作(貝田) 高橋忠七(貝田) 永山正明(貝田) 櫻沢はる子(光明寺) 後藤忠一(高城) 佐藤岩雄(山根) 松浦伍郎(築館) 佐藤要蔵(北部) 鈴木直治(川内)





国見町公民館  
☎85-2676  
(有) 4156

## 少年仲間づくり 教室が開講



▲なごやいだ雰囲気の開講式

六月二十八日少年仲間づくり教室の開講式が行われました。式には学級生と父兄約百人が出席し、井砂公民館長、来賓の藤田小瀬戸校長から、開設の目的と励ましのことがありました。式終了後、体育館でサークルほけつとの指導で楽しいゲームをして、第一回目の学習会を終

了しました。学級生は、七月末に行われるキャンプ研修を楽しみに解散しました。



▲ゲームを楽しむ教室生

## 成人学級

### 〃六月の学習

成人学級では、六月十日第二回目の学習として、コーラスで楽しみました。

早田精先生の指導で、「荒城の月」の二部合唱、「七ツの子」(「夏の日の思い出」などを斉唱で歌い、学級生は久しぶりに大きな声を出して、楽しい学習会になりました。

また、六月二十四日は、二年後に阿津賀志合戦後八〇〇年を迎えるにあたり「阿津賀志合戦

後から、藤原氏の滅亡まで」について、菊池利雄先生の講義により学習をいたしました。



▲コーラスの学習 (%)



▲郷土の歴史を学ぶ

## 阿津賀志学級で 視察研修

阿津賀志学級では、例年行っている春の研修旅行を、六月十二日行い、七十三人の学級生が

参加しました。研修地は、NHK福島放送局、ヤクルト福島工場、福島市民家園、県消防学校の四か所を見学し、有意義な一日を過ごしました。



▲消防学校の訓練を視察

## 女子ソフトクラブ 会員募集

●練習日 毎週土曜日  
午後七時三十分から

●場所 県北中グラウンド

※申し込み及び問い合わせは、丹野邦美宅(☎八五・五二二五)か公民館(☎八五・二六七六)まで



# 町民講座を開設

昭和六十二年前期の町民学校のワープロ教室、大正琴教室、水泳教室、写仏教室、ボール教室を開催いたしました。

受講生は、一生懸命講師の先生の指導を受けました。続けるほどに、おもしろさがわいてくると思います。



▲写仏教室



▲大正琴教室



▲ワープロ教室

## 母と子の公民館活動

六月の公民館活動は、大型紙芝居(鉄の子カヒル)と折紙(ふくろう)などの、創作活動を行いました。

一年生の参加者も増えており、子供の情操をより豊かにし、明るくすこやかに成長するよう活動を、実施して参りたいと思います。



▲大木戸小学校で

## 婦人学級で

### 合同研修旅行

去る六月二十八日、伝統の文化や歴史を体験しながら、婦人学級相互の交歓をはかるため、高城・西大枝・のぼら・中央の各婦人学級から四十人が参加し、会津方面への合同研修旅行が実施されました。

午前中は、昨年十月にオープンした県立博物館を視察しました。ここには、国見町からの展示物も数多くあり、特に国の史跡「阿津賀志山防塁」をパノラマ展示したコーナーでは、学級生みんな足を止めて係員の説明に耳を傾け、当時の合戦のようすを堪能していました。



▲県立博物館前で記念撮影

午後からは、やはりオープンしたばかりの会津藩校日新館を見学しました。この施設は、全国でも高い教育水準にあったといわれる会津藩の学校を復元したもので、学級生たちも、そのスケールの大きさと、独特の気風に感動したようでした。また、実際に儒教の講義を受け、当時の教えが現代にも通用することを感じました。

## ★壮年ソフトボール

県民スポーツ大会県北大大会が七月十九日に開催されますが、このほど、種目別町予選大会が行われ、熱戦の末、次のチームが町代表に決まりました。県北大大会での活躍が期待されます。

## 県民スポーツ大会 町代表チーム 決まる

### 宮町クラブ

### ★家庭バレーボール

### 宮町クラブ

### ★バドミントン

### 国見町バドミントンクラブ

### ★軟式庭球

### 国見テニスクラブ

わだ い



### まっ赤なイチゴに大喜び

六月八日午前十時から、森江野季節保育所の園児五十人は、村上一人(第八)方のイチゴハウスで、イチゴ狩りを楽しみました。



▲夢中になってイチゴ狩りを楽しむ

快晴に恵まれたこの日、園児たちは、保育所責任者の引地守さん、保護者会長の斎藤勇子さんに連れられ、徳江字沼田地内にあるイチゴハウスまで歩き、手作りのバックに、まっ赤に熟

したイチゴを、山もりになるまでとっていました。

イチゴハウスは三種で、園児たちに収穫の喜びを味わってもらおうと、村上さんがとらずに育てておいたものです。

園児たちは、手や服をまっ赤にしながらも、一生懸命にイチゴをとっていました。収穫したイチゴは、早速持ちかえり、みんなでおいしくいただいたとのこと。

### 火の守りの誓い新た

町消防団で点検

六月十四日、町消防団の定期点検が実施されました。午前九時に十一台の消防自動車、町内に整列した団員を観閲しました。

その後、藤田小学校校庭で、通常点検、規律訓練、ポンプ操作、分別行進などが行われ、消防団員のキビキビした行動で、火の守りの誓いを新たにしました。

「団員皆さんの盛んな志気と、消防精神に徹した節度ある行動を拝見し、消防団に対する信頼の度を一層深めました」と八島町長職務代理者助役から講評があり、続いて、阿部団長から、

「当町の消防施設、設備は年々充実されて、これらの維持管理には万全を期し、有事の際には充分な効果が得られるように」と訓示がありました。

また、表彰並びに表彰伝達が行われ、前団長の林元治さんらに、町長、団長から感謝状と記念品が手渡されました。

さらに、一般表彰者として、消防活動協力者の佐藤光美さん(小坂)、高橋静夫・栄さん(貝田)、人命救助協力者の佐藤祐子さん(小坂)、梅津美廣さん(福島市・警備保障セコム勤務)が受賞されました。



▲勢ぞろいした団員の皆さん

### クリーンアップ作戦

七月五日、河川美化作業が県下一斉に行われました。

朝方、かなり強い雨が降りましたが、各部落会の皆さん及び町内各土木業者の方々の積極的な参加で、大きな成果をあげる事ができました。

一部七月十二日実施の地域もありましたが、国見町全体で約二千二百人もの参加があり、町内を流れる一級河川(普蔵川・滝川・上泉川・牛沢川)を中心として、空かん・廃ヒニール・廃プラスチック・廃材などのゴミの回収及び雑木伐採・草刈りが行われました。

ちなみに回収されたゴミ類はダンブで二十一台分、約七・三トンにのぼりました。

日ごろから河川へのゴミや空きかんなどの投げ捨ては絶対しないように心がけ、きれいな川をいつまでも国見町に残したいものです。



▲草が刈りとられ、きれいになった滝川(山崎字川前地区)

### 編集日記

○今年の梅雨は、前半がカラ梅雨といわれ、また、暖冬のせいもあり、全国的に水不足で、給水制限の起る果もあり。梅雨明けごろには、局地的な大雨もあるとのこと。昨年八月の集中豪雨のようにはなっていないものですね。

○梅雨独得の肌寒い日が続いたと思っただけ、いきなり三十度を超す猛暑。体に愛調をきたしがちですので、十分注意したいものです。

○今年も早いもので、半分が過ぎました。このごろ、月日のたつのが早く感じるようになりまして。これも歳のせいでしょうか。などと思ったりしています。

○五日に、町内一斉にクリーンアップ・キャンペーンが展開されました。今回も、町民の皆さんのご協力で、大きな成果をあげることができましたが、あいかわらずの空き缶やゴミの多さには驚かされました。私たちが一人ひとりが注意すれば、ゴミ拾いなど必要ないと思います。美しい河川は、私たちに潤いと安らぎを与えてくれます。ふるさとをすばらしく自然を、孫子に代まで、美しい姿で残したいものです。